

令和6年度滑川市地域公共交通会議 会議録

開催概要

- 日時 令和7年3月27日（木） 午後2時00分～午後3時30分
 ■場所 滑川市役所 本館3階大会議室
 ■出席者 委員14名

出席状況

委員名簿

令和6年度滑川市地域公共交通会議委員名簿

選出区分	団体名		役職名	氏名	
学識経験者			富山国際大学名誉教授	長尾 治明	
住民又は利用者の代表	滑川市自治会連合会		会長	松井 正嗣	
住民又は利用者の代表	悠友クラブ滑川		会長	柿澤 清喜	欠席
住民又は利用者の代表	滑川市小中学校PTA連合会		北加積小学校PTA会長	西出 絵美	
住民又は利用者の代表	滑川市民生・児童委員協議会		会長	砂子 良治	
住民又は利用者の代表	滑川市観光協会		会長	早川 祐一	欠席
住民又は利用者の代表	滑川商工会議所		専務理事	杉田 隆之	
一般乗合旅客自動車運送事業者の代表者	富山地方鉄道株式会社	自動車部	部長	中松 清孝	
一般貸切(乗用)旅客自動車運送事業者の代表者	株式会社佐々井タクシー		代表取締役	高川 妙子	代理出席 佐々井 光廣
一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体の代表者	富山県交通運輸産業労働組合協議会		議長	金山 剛	
鉄道事業者の代表者	あいの風とやま鉄道株式会社	総務企画部企画課	課長	田中 博	
鉄道事業者の代表者	富山地方鉄道株式会社	鉄軌道部運転管理課	課長	伊東 信男	欠席
国土交通省北陸信越運輸局富山運輸支局長又はその指名する者	北陸信越運輸局富山運輸支局	首席運輸企画専門官(輸送・監査担当)		廣井 和幸	欠席
国土交通省北陸信越運輸局富山運輸支局長又はその指名する者	北陸信越運輸局富山運輸支局	首席運輸企画専門官(企画調整担当)		景山 隼人	
富山県滑川警察署の職員	滑川警察署	地域交通課	課長	荒井 久也	
富山県の職員	富山県交通政策局	交通戦略企画課	課長	有田 翔伍	欠席
富山県の職員	富山県新川土木センター		工務第一課長	川端 哲也	代理出席 横田 弘一
滑川市の職員	滑川市副市長			柿沢 昌宏	
滑川市の職員	滑川市産業民生部長			黒川 茂樹	

事務局（滑川市産業民生部生活環境課内）

丸山課長、高村課長補佐、小谷主事

会 議 次 第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 座長あいさつ
- 4 報告事項
令和6年度滑川市コミュニティバス(のる my car)運行状況等について
滑川市地域公共交通計画の実施状況について
- 5 協議事項
(1) 令和7年度滑川市コミュニティバス(のる my car)運行計画について
(2) 滑川市オンデマンド運行実証実験(案)について
- 6 閉 会

会 議 録

1 開会

【事務局】

ただいまから、「令和6年度滑川市地域公共交通会議」を開催いたします。本日進行を務めさせていただきます、生活環境課長の丸山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

～委員の紹介・会議資料の確認～

それでは、本会議の会長であります、滑川市副市長の柿沢が皆様にご挨拶申し上げます。

2 会長あいさつ

～柿沢会長あいさつ～

【事務局】

それでは、ここからの進行は長尾座長にお願いしたいと思います。長尾座長、よろしくお願いします。

3 座長あいさつ

【長尾座長】

座長を務めさせていただきます、富山国際大学の長尾と申します。今ほど会長から本日の審議内容について説明があったところですが、今日は各委員の立場からいろいろご意見をお伺いして、次年度のオンデマンド事業等に反映できればと考えております。

環境的な話を少しさせていただくのですが、先日ニューヨークタイムズにおいて、「2025年に行くべき52箇所」に富山市が選ばれ、素晴らしい観光地であると紹介され、新田県知事・藤井富山市長からも令和7年度において外国人観光客を増やしていきたいという動きがあります。それから2点目として、関西万博が4月13日から10月13日の期間開催され、多くの方が来場されるので、これも滑川市において大きな追い風でないかと思います。

この路線バスに関しましては、住民の皆さんにたくさん多頻度にご利用してもらうことが大きな狙いかもしれませんが、観光客の方も滑川市に来られるので、そういった方にも利用していただくような事業を観光客に勧めるのも、令和7年度の乗降客数の

拡大のための1つかなと思います。滑川市にはいろんな海産物、食べてみたい物や、観光地もありますので、これを機会に外国人の皆さんにもバスの旅を味わっていただき、また、地元の皆さんが食べている食堂のようなところで一緒に食べたり、居酒屋で飲んだりしてもらおう、絶好の機会になるのではと思います。

2日前に氷見市に観光振興推進事業があり、氷見市においても観光客を対象に次年度は力を入れていきたいとのことで、氷見市は台湾の企業との交流が昔からあり、そのつながりをさらに深めて、台湾から多くの観光客を呼ぶ計画を予定しています。地元にとっても期待値が高まった推進会議となったかと思います。各自治体においても、路線バスを利用したことがない人達に、まずはバスに乗る経験をしてもらう何らかのきっかけ作りが必要だと思います。

今日は報告事項2つ、協議事項2つありますが、主にオンデマンド実証事業に関して、日頃各委員の皆様が考えておられる点、どのように運営していったらいいか、いろんな立場・角度からご意見をお伺いできればと考えております。今日はよろしくお願いいたします。

4 協議・報告事項

【長尾座長】

それでは協議に入ります。お手元の議事次第に従いまして、進行させていただきます。まず、報告事項（1）『令和6年度滑川市コミュニティバス（のる my car）運行状況について』、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

報告事項（1）令和6年度滑川市コミュニティバス（のる my car）運行状況等について

～ 事務局説明 ～

【長尾座長】

ただいま事務局から説明がありました、内容について、ご質問やご意見等ございましたらお願いします。

【横田委員】

便ごとの利用状況で、第2便が一番多い理由は何か把握されているか。

【事務局】

2便が多い理由としましては、厚生連滑川病院を受診される高齢者の方の利用が多くなっていることが要因の1つだと認識しております。また、午前中の内にエールなどで買い物に行かれる方が多くなっていることも把握しております。

【横田委員】

ありがとうございます。便ごとに目的を持って乗られる方がおられるのかなという思いの中で、第1・2便という名称より、「通院便」「買い物便」など名前が付いている方が、目的を持って乗るのかなと思いました。

【長尾座長】

便名に関して、目的別の名称を付けるという考えですが、利用客にとっては一番なじみがありイメージが付くという点では、1つの乗降客数の増加につながるのではな

いかと思います。また、事務局でご検討の程お願いします。

【杉田委員】

高齢者運転免許自主返納支援事業について、令和6年度新規申請者数55名のうち、65歳以上70歳未満の方は何名おられるか。

【事務局】

65歳以上70歳未満の方の返納は3名となっております。例年1名程度なのですが、本年は数名増となっております。

【杉田委員】

市内の事業所では、本人が希望すれば65歳までの雇用が義務づけられている。それに加えて70歳までの雇用についても努力義務として、数年のうちには努力が消えるという風にも言われている。こういった状況がある中、現状の年齢区分をもう少し見直した方が良いのではないかと。それに伴い、利用者の増加に向け有効期間の引き延ばし等も考えていく時代になったのではないかと思います。

【長尾座長】

返納者に対する支援事業の有効期間、年齢区分に関してより多くの方が該当者になるように検討していけばというご意見ですが、この4・5年、利用者が減少傾向にあるので、何らかの見直しを図った方が良いのではないかと思います。

今のままでは、このまま減少し忘れられていく懸念もあるので、特に高齢者にとっては、マイカーに変わる日常の足として、これからの健康寿命を長く保つためにも、家にじっとせず外に出るという機会を作っていくのが、路線バスの大きな目的にもなるだろうし、高齢者同士のお話しの場を設け元気に過ごしていく、人と会うことの喜びというところも、路線バスを利用する1つの目的にもつながって行くかと思います。今後も課題として考えていってください。

【西出委員】

令和6年度は「のるマイカー」1日無料デーを3日ほど実施されたとのことだが、私個人の考えとしては、生活に欠かせないバスの運行利用を目的としているのであれば、例えば、毎月1日はバス無料デーなど、特別なイベント時ではなく生活の中で、月に1回バスが無料で乗れる日があれば、その日にバスを利用して図書館に行ってみようか、といった家族が増えるのではないかと感じました。イベント時に無料デーがあっても良いと思うが、生活の中でこういう利用のしかたがあるよという提案の1つにするとしたら、日常の普段の日に定期的に1日あってもいいのかなと思いました。

【長尾座長】

生活に根付いた特別な日ですね。令和6年度はイベントとの連携で無料バスが企画されていますが、市民の日常生活の中でそういう日が設けられると、何か子どもと親との連携がとれるような日や曜日であっても良いかなと思います。すごく良いアイデアだと思います。市民に密着した特別デーであれば、覚えやすいだろうし参加してみようという意欲も高まるのではないかと思います。

イベントに関しては、これだけの人たちが利用しているので、今後も継続をされた方が良いのではないかと思います。こういった事業を路線バスで行っていけば、観光客や外部の方に対して、バスが無料で動いているから、それを利用してイベントに参加したらどうですか？と市民からアドバイスもできるようになるのではないかと思います。

います。

いま提案のあった生活に密着した無料デーに関しても検討いただき、皆さんに定着していくような市民デーも考えていただければと思います。

【長尾座長】

このほかにもご提案等あれば、委員会後に事務局へお伝えください。では、続きまして、報告事項（２）『滑川市地域公共交通計画の実施状況について』、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

報告事項（２）滑川市地域公共交通計画の実施状況について

～ 事務局説明 ～

【長尾座長】

ただいま事務局から説明がありました、滑川市地域公共交通計画の実施状況について、ご質問やご意見等ございましたらお願いします。

【長尾座長】

交通計画の中間評価はいつ頃になりますか。

【事務局】

現在の計画が令和５年～令和９年になるので、令和７年度の実績値を基に、令和８年度交通会議にて中間評価を実施したいと考えております。

【長尾座長】

満足度を測る対象人数はどのくらいを考えているか。

【事務局】

交通計画策定時は、約２,０００人にアンケートを配布し半数ほどの方から回答がありました。この数値を参考に、今後また検討したいと思います。

【長尾座長】

運営収支率は１３％ですが、目標の１７％は難しそうか。

【事務局】

なんとも言えないが、難しい状況ではあると思います。

【横田委員】

無料デーや高齢者へのフリーパスの運行収支の計算上は、その方々が有料で乗った場合の運営収支か。

【事務局】

そのとおりです。無料デーや高齢者フリーパスの利用料金は、生活環境課において負担しております。

【金山委員】

行政としてクロスセクター効果を狙ったときに、福祉の目的があったり、お子さんのスクールの目的があったり、その目的それぞれに予算を立てられて、それが組み合わせあって、地域の交通を支えましょう・空白地域も埋めましょう、というプログラムがベースにあるのであれば、体験されたことのない方々に乗ってもらいましょうなど、そういったところにも生きてくるだろうと思う。目的がしっかりされていたら恐縮ですが、計画書の中にはそういったものが見えなかったが、今日話を聞いてそういうことなのだろうと感じた。

【長尾座長】

事務局から何かありますか。

【事務局】

貴重なご意見をありがとうございます。

【長尾座長】

他の自治体で、クロスセクター効果に関する論文を紹介しているところもあるので、それらを参考に滑川市としてクロスセクター効果がどの程度あるか試算してみるのも良いかと思います。

計算するのは難しいかもしれないが、報告事項2の実績値と具体的な活動内容は、仮でも数値化しないと評価できないと思いますが、どの活動がどの結果に影響しているか、因果関係を今後検討していくのに、客観的なデータ分析が必要かと思います。

事務局的には、どの事業がどの目標数値に影響しているのではないかと、いうものは何かあるか。

【事務局】

詳しいところまでは分析していないが、例えば(2)コミュニティバスへの関心を高める取り組みなどは、1便当たりの利用者数に直結しているのではないかと思います。

【長尾座長】

それが数値的に裏付けられてれば、今後その因果関係が明らかになりこういうやり方がいいだろうなど、考えていくことができると思います。

【長尾座長】

高校生のラッピング事業では、美術部・写真部に謝礼金など渡したのですか。

【事務局】

感謝状と、部で使う道具を贈呈しております。

【長尾座長】

写真部からは、写真データをもらったりしたのですか。

【事務局】

写真を用いたラッピングデザインを、作成いただきました。

【長尾座長】

実施内容と実績値の関係がわかるような方向を目指していただきたいと思います。

では、報告事項2については以上とさせていただきます。では、続きまして、協議事項（1）『令和7年度滑川市コミュニティバス（のる my car）運行計画について』、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

協議事項（1）令和7年度滑川市コミュニティバス（のる my car）運行計画について

～ 事務局説明 ～

【長尾座長】

ただいま事務局から説明がありました、運行計画についてご質問やご意見等ございましたらお願いします。

【横田委員】

資料2、年末年始運行してほしいという要望に対し、アンケートの結果から運行しないという回答は、少し冷たいというか、運転手が確保できないなどの理由のほうか、お相手もより納得されるのではないかと感じました。

【事務局】

ご意見を参考に、今後も対応していきたいと思います。

【金山委員】

運転従事者の方の話がでました。働き方が厳しくなったという表現をされたかと思いますが、改善基準告示のことを言われたのだと思いますが、決して厳しくなったのではなく当たり前になったので、そこはお間違えないようお願いいたします。

労働環境はいろいろありますが、お医者さんと交通従事者については5年間労働環境先送りでした。なので時間外の規制の枠から外れていましたし、トラック・バスの運転手さんは普通の労働状況とは違うところで働いています。なので、そのことをきちんと当たり前に、世の中と同じようなものにするために直された基準でありますから、そのあたりは、お間違えないようお願いいたします。

もう1つは、なり手が少ないです。いま使われている車両は小さい車ですから、大型はいらないかもしれませんが、現在、年間に大型2種免許取る方は県内で30名程度です。多いほうです。ここ数年では。だいたい15名～20名程度が推移しています。また、いま保有されている方の平均年齢が65歳から70歳くらいです。いずれ、資格を取る方がもっと少なくなるでしょうし、保有されている方も少なくなる。その中で、なぜ2種免許という物があるか。いろんな規制が緩められて。それでも地域の足を守ろうということも国もルールを変えてやっています。職業運転者というのは、それぞれ理由があってそういう資格がありますから、付け加えさせていただきました。

【事務局】

先程の表現の件について、訂正しお詫びいたします。

【長尾座長】

ほかよろしいでしょうか。次のオンデマンド事業にも関連していますので、次の説

明も聞いてご発言をお願いいたします。

では、協議事項（２）『滑川市オンデマンド運行の実証事業（案）について』、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

協議事項（２）滑川市オンデマンド運行の実証事業（案）について

～ 事務局説明 ～

【長尾座長】

協議事項２のオンデマンド実証事業案について説明がありました。ここは意見交換の場とし、決める場ではないので、いろいろな意見を出していただきたいと思います。どのように事業を推進していったら良いか、方向性などのご意見をたくさんいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【杉田委員】

数年委員をしている中で、オンデマンド運行についても議題に上がったことがあります。いままで検討を重ねてこられたわけで、ほかの自治体でやっていてなぜ滑川でできないのだろうと疑問があったが、今回このような形で実証運行をやってみようというご提案されたことは率直に評価をしたいと思います。いろいろと課題はあるかと思いますが、市民の方に乗っていただいてデマンドで外出する機会を、先程ありました無料デーを拡充したり、あるいは免許を少しでも返したいという気分になってもらえるような、そういった施策とともに、時代に即した実証運行をやっていただけるのは、本当にうれしい限りです。

まずはやってみた中から、課題を克服していくと。ここには専門家たくさんおられますので、ご意見をいただきながら良いものにしていただきたいと思います。

【長尾座長】

積極的な意見をいただけたかと思います。課題はどの自治体も抱えているわけですので、やりながら修正してより良い方向を目指していけばと思います。理屈だけが先行するのではなく、実証ですから、こういうところはこう修正した方が良いとか、氷見や射水などとも意見交換しながら、より良い方向へ導ければ良いのではと思います。

【松井委員】

共働きの親を持つ学生について、あいの風の始発等、行きの通学や部活がない生徒の帰宅は、のるまいカーが利用できるが、部活をしてくと親の迎えを待たなければならない、という学生さんを持つ親御さんからの意見があった。そういった面では、オンデマンド運行は良いのではないかと思う。

あとは、車両について大きなバスではなく、７人乗りくらいの車両でさっと乗ってさっと降りられる、そのような形が良いのではと思います。

【長尾座長】

部活があり迎えを待たなければならない。時間帯も部活によって様々だと思います。そのようなニーズがあるというのは、考えられると思う。そういう生徒さんにどう対応できるかも、１つのニーズに対応していく方向性だと思います。

バスの大きさというのは、小型のほうが小回りも利きますし、どの程度の小型化が

できるかもしれませんが、そのあたりの検討課題もご意見いただきました。

【砂子委員】

望んでいたことが現実になってきたなという感じを受けます。これを前向きに考えて、特にいま免許返納という話も多くだんだん増えてくると思っていますので、そういう人が乗りやすい方向に図ってほしいと思います。

【長尾座長】

高齢者もいつまでも運転したくないという思いも強いと思いますので、高齢者の方が気軽に呼んで利用できるような環境を、しっかり作っていく。小・中・高生、高齢者の方々が具体的なターゲットになりそうだというイメージが付くかと思います。

あとは、具体的にどのような運行システムにすれば良いのか、運用に当たってのデザインを今後検討していく必要が大いにあるかと思います。

【横田委員】

オンデマンド運行は非常に難しい印象があり、いま実証運行エリア案として南西エリア出されているが、ここは今現在定時定路線の運行バスがたくさん走っているエリアかなと思います。そんな中に、オンデマンドを被せようとしたときに、何かの路線をやめて実施しようとしているのか、上に被せてみようということなのか。

【事務局】

令和7年度の実証運行については、現行のコミュニティバスを運行させたまま、オンデマンドバス実証運行を実施しようと考えております。

【横田委員】

わかりました。料金についてはどのように考えておられますか。

【事務局】

料金につきましては、今後分科会等で市民の方からのご意見をいただいた上で設定しようかと考えているが、ほかの自治体の事例を聞いていると、例えば魚津市は500円、射水市は1回200円・1日乗車券300円で販売している。そういった事例や市民の方の声を聞きながら設定していきたいと思っております。

【横田委員】

オンデマンド運行の場合にも、赤字覚悟で運行しないとダメなんだと思います。今現在のコミュニティバスで1人あたりに掛けている経費は、100円もらって1,000円かけて運行しているくらいではないかと思うが、オンデマンドにしたときに、どれだけかぶるつもりなのかという点が1つあり、難しい点だと思う。

もう1点が、オンデマンドにするということは、定時定路線をやめてオンデマンドにするというのが、本来の姿になってくるのかなと。今回の実証運行の結果をもってオンデマンドに切替えるということになると、かなりのハレーションが起きるのではないかという懸念があるので、コミュニティバスがたくさん走っているところでやるより、走っていないところでやったほうがみんなのニーズがとれるのかなと。いま定時定路線に乗れない人が、お金を払ってでも乗りたいとどれだけいるのかという部分を、実証された方がいいのではないかという気がします。

そんな中でいつも思っているのが、中学生が普段自転車で春夏秋は通学してるが、冬になると自転車がダメで歩いて行かなければならない日がある。道を歩いている子

もいれば親が送っているところもあり、その時間帯にオンデマンドを入れると子ども達、普段バス乗らない子達だけ乗るなど、A I でルートを設定して運行するというニーズはあるのかなと思っています。

【長尾座長】

ご意見として、バス路線が少ないところでまず実証実験をやってみてはどうかというご意見です。やはり動かしてみると色んな課題が頭の中で考えていなかったような事象が出てくると思います。先程も言いましたが、まずはやってみるということが、問題点の解決に早くつながるのではないかと思います。そのためにほかの自治体もチャレンジしていますので、共通的な課題も見えてくるかなと思います。

ここまで事務局の方で令和7年度にやってみたいと整理し、施策までいっていただくことで、問題点等を抽出できるので、今後検討していくべき課題も出てくるかと思っています。また、技術の進歩もあり、無人の人間が運転しない、ロボット化されていく可能性も将来的には考えられる。どんな課題があるかについても令和7年度において丁寧に課題を出してみて、整理していく必要があるのではないかと思います。

時間も限られておりますので、まだまだご意見もあることと思いますが、ほかにも気づいた点があれば、事務局へ投げかけていただければと思います。最後にこれだけは言っておきたいことなどございませんでしょうか。

～（特になし）～

協議事項2については以上とさせていただきます。

令和7年度においても、事務局が説明がありましたように、今後詰めていくことになりますので、次の委員会まで情報収集の上、この場でご意見をいただけるように、お願いしたいと思います。

【長尾座長】

本日の協議事項は以上となります。

それでは、この後は事務局のほうにお返ししたいと思います。

【事務局】

長尾委員、ありがとうございました。

また、委員の皆様には長時間にわたり活発にご意見いただきありがとうございます。なお、令和6年度皆様をお願いしております本会議委員の任期は今月末までとなっております。

新たな任期の委員につきましては、改めて、ご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上を持ちまして、「令和6年度滑川市地域公共交通会議」を閉会いたします。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。